

2016 年度秋学期授業アンケート総評

教育開発支援センター長 大西秀之

2017 年度からは、昨今大学に求められている「アクティブラーニング」や「学習成果の可視化」などの授業改革への対応を目的として、アンケートの形式・内容を大幅に改定することが決定しています。このため、今回は次年度の改定を先取る意図を込め、既存の記載を踏襲するのではなく、科目区分ごとの総括を踏まえた総評とさせていただきます。

今回の授業アンケート全体の結果を踏まえ、6 学部 11 学科の各学科主任より「授業評価報告」を提出していただきました。またこれに加え、「共通学芸」、「キリスト教・同志社関係」、「外国語」、「スポーツ・健康」「教職」の 5 科目区分からも、同じく「授業評価報告」を提出していただきました。

それらを概観すると、まず大きく二つのタイプに分けられる内容の報告となっていました。まず一つは、特定の項目・トピックを取り上げ、それらに着目し言及・評価されたものです。このタイプは、当該科目（の報告者）が今回実施した形式の授業アンケートのなかで、どの項目・トピックを特に重視されているか把握できる内容と評価することができる反面、学科間の比較ができないことが問題点として挙げられます。いま一つは、今回のアンケート全体の集計結果を網羅的に分析・考察されたタイプです。こちらのタイプは、今回のアンケート結果全体の概要を把握し、できる限りデータとして提示されたものと理解できる反面、課題改善の方向性が見えにくいことが問題点として挙げられます。なおこれらとは別に、今回の報告では、前回（2016 年度春学期）や他学科などのアンケート結果との比較を加えられているものがありました。こうした比較は、経年的な変化や自他の差異などといった傾向を把握する上で有効な検討素材になると考えられますが、比較が報告者の関心・視点に限定されるという問題点が挙げられます。

以上のような諸問題を解消するため、2017 年度の授業アンケートは、改善点をより明確に把握することを意図した形式・内容に変更いたします。この変更によって、各教員のコメントが要点を絞ったものになることを期待しています。このため、学科の評価報告は各教員のコメントを積み上げる形で作成していただき、またその上に総評を御提示することによって、全学で授業改善の方向性が俯瞰できるような仕組みを、次回の改定に併せて構築して行きたいと考えております。